

友 和

NO.582

発行日 令和 7 年 10 月 1 日

発行 社会福祉法人 友和の里

〒 738-0203

広島県廿日市市友田 218-38

TEL0829-74-2157 FAX0829-74-2154

HP : <http://yuuanosato.com/>

発行者 常務理事 中村 真和



乗船中のようす、一般のお客さんもおられる中で寛ぐみなさん

9月25日、呉へ旅行に出かけました。今回の行き先は「おんど観光文化会館うずしお」「呉ハイカラ食堂」、そして呉と江田島を結ぶ「おさんぽクルーズ」です。おんど観光文化会館うずしおでは、赤い音戸大橋を背景に写真を撮る利用者さんや、歴史模型の中を走る汽車に夢になる人など、それぞれが思い思いに楽しむ姿が見られました。ハイカラ食堂では、軍艦にちなんだ料理を味わいました。特に呉冷麺が人気で先に食べる人が多かったです。館内の軍艦模型や軍艦カレーにも関心が集まり、「これお父さんにお土産を買うんよ」と軍艦カレーをまとめて購入される人もいました。クルーズまでの待ち時間には、ゆめタウンの売店で買い物を楽しまれるなど、それぞれに過ごされました。おさんぽクルーズでは、少し疲れた様子もありましたが、窓からの景色を眺めながら船旅を満喫しました。ガイドさんの説明を聞きながら、普段とは違った視点から景色を楽しむことができたようです。階段が苦手な方は下のフロアでゆっくりと海を眺め、心地よい時間を過ごされました。帰りのバスでは「楽しかったね」と話す人や、目を閉じて休む人など、それぞれに余韻を楽しんでおられました。(生活支援員 玉田淳也)

特集

訪問リハビリ について

今月は訪問リハビリのご紹介です。

友和の里では、2017 年より訪問リハビリを導入し、現在 13 名の利用者さんが理学療法士によるサポートを受けています。リハビリの内容や頻度は一人ひとりに合わせて計画され、毎月 1 回のドクター往診のもと進められています。担当されているのは、**和光整形外科クリニック**から来ていただいているおきまさゆうすけ**沖政祐亮さん**です。紺色のポロシャツに短パンという軽快なスタイルで、事務室や階段、遊歩道、居室など、施設内のさまざまな場所を活用しながらリハビリを行われています。落ち着いた口調で利用者さんの特長やアプローチを語りながら、専門的な質問にも分かりやすく答えてくださるので、取材を通して私自身も安心感を覚えました。

__ リハビリとは

沖政さんは「リハビリとは、もとあったものを取り戻す行為」と話されます。単に体の機能を回復させるだけでなく、心の面や社会生活を含めて支える“全人間的復権”を目指すものです。つまり、「その人が人間らしく、尊厳を持って生きられるようにする」ことがリハビリの本質なのです。

__ 友和の里での工夫

リハビリの内容は利用者さんごとに異なります。たとえば歩行が不安定な方には、より自然な動きに近づけられるように支援します。転倒防止の要望から始まった取り組みも多く、専門的なアプローチで「自分の意思で体を動かせるように」働きかけています。さらに、心拍数の変化を測定して運動の負担を数値で評価するなど、客観的な方法も取り入れています。こうした工夫により、安全で効果的なリハビリが実践されています。

__ 大切にしていること

「成果がすぐに見えないこともあり、心苦しさを感じることもあります。それでも何もしなければ機能は確実に低下してしまう。だからこそ続けることに意味があるのです」と沖政さん。利用者さんがうまくできたときには「よくがんばったね」と声をかけたり肩をたたいたりして、努力をしっかりと認め、モチベーションを高めることも大切にされています。

__ 今後への願い

沖政さんは「リハビリの時間だけでは運動量は十分に確保できません。日常の中でもう少し体を動かす機会が増えるといいと思います」と、今後への期待を語られました。



事務所内でのリハビリ風景



心拍数を測れる腕時計



取材を終えて

リハビリは単なる運動の訓練ではなく、利用者さんがその人らしく生きるための大切な営みであることを改めて実感しました。「7 年前は階段を上れなかったんですよ」と階段でのリハビリ風景を見せてもらった時、沖政さんが訪問という決して恵まれた環境でない所で根気強く続けて来られた年月に頭が下がりました。友和の里の訪問リハビリが、これからも利用者さんの安心と希望につながっていくことを願います。

(地域交流支援員ヒューガノリコ)

グループホーム「ハピネスゆうわ」 建築工事の地鎮祭について

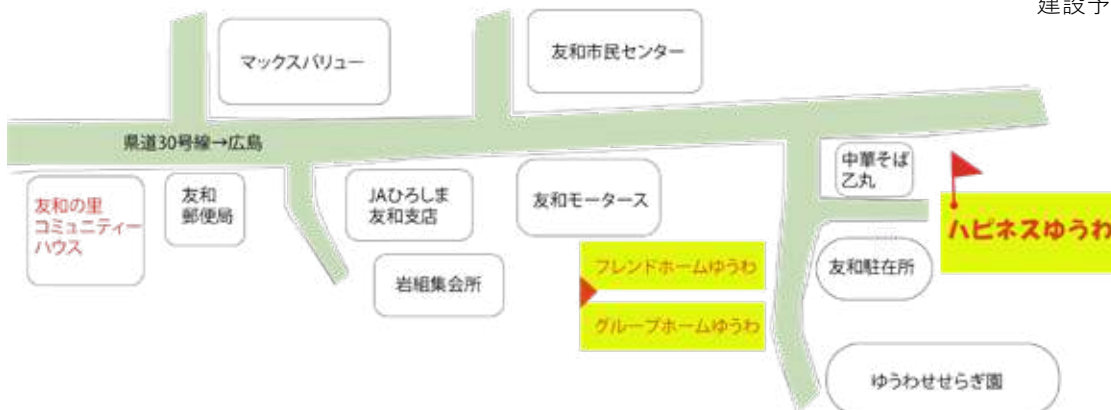
新築工事がいよいよはじまります！

令和7年9月8日、「ハピネスゆうわ」新築工事にあたり、無事に地鎮祭を執り行いました。友和の里は、これまでに二棟のグループホームを近隣に設置し、地域の皆さまのご理解とご支援を賜りながら運営を続けてくることができました。そしてこのたび三棟目となる「ハピネスゆうわ」を建てられるのも、ひとえに皆さまのお力添えの賜物でございます。日頃からの温かいご協力に、心より感謝申し上げます。

三棟を合わせ、最大二十八名の障害のある方々の暮らしを支えることとなります。ご入居いただいた方の人生に、数十年単位で寄り添い続けることが、私たちの責務だと考えております。そのために、組織のさらなる強化と人材の育成に力を尽くし、より良い支援体制を築いてまいります。



建設予定地



研修報告

施設見学（平成会）と広島県知的障害者福祉協会文化芸術の部圏域委員会 対面会議



竹原市にある「あさひチョコレート」のようす、B型の事業所です。

私は、①就労継続支援B型事業所の方がどのように働いておられるのか、②福祉の分野において文化芸術部門の現状が知りたかったので、今回研修に参加しました。東広島市にある平成会を視察しました。そこでは実際にポリ袋の箱や、パーツの組み立て作業の現場を見学させていただきました。利用者さんが働きやすくするための工夫があり、参考になりました。更に、子育てしながらでも働けるよう保育所が併設されていたり、ゆったりとした職員室など、職員が働きやすくするための取り組みも行われており、配慮が行き届いていると感じました。今回の研修では、文化芸術部門についての情報は少なかったですが、利用者さんが様々な場面で活躍されていることを知ることができたので、職員の工夫や配慮を現場でも活かしていきます。

（生活支援員 冠 茜）



黙々と作業に打ち込む沖田さん

とうげいはん 陶芸班

干支の素焼きをした後は表面が粉っぽくなっています。釉薬をつける前に布でふき取ることで釉薬がしっかりとつき、焼き上がりがきれいになります。干支の個数が大中小合わせて400個ほどありましたので、皆さんに手伝ってもらい無事終了しました。
(生活支援員 朝川 泰貴)

そうさくはん だいくまさき 創作班

大黒真希さんは、創作班の元気印です。作業中はウエスの糸取り作業を集中して行われていますが、皆さんの様子を感じておられるのか作業の途中で「頑張った〜」「元気〜？」と周りの皆さんに声をかけてくれます。また、ウエスを納品する時には、率先して積み込み作業を手伝ってくださり、荷物を運び終えると「やった〜!」「頑張ったよお〜!」と最高の笑顔を見せてくれます。これからも元気いっぱい頑張っていきましょうね。今月をもちまして、創作班を盛り上げてくださる利用者さんのご紹介を一旦終了させていただきます。引き続き、みなさんの様子はお伝えしていきます。(主任生活支援員 山田憲志)

かいとお はん 貝通し班

貝通し作業に沖田信之さんが新しく入られてから2か月近くが経ち、少しずつ今の環境に慣れてこられたご様子です。作業に対しても、皆さんより少し早く作業棟に入られたり、完成本数が増えてきたりとやる気が見えてきています。沖田さんは不言実行な方で、やる気をあまり表に出されませんが、行動や態度からすごく気持ちが伝わってきます。沖田さん、無理なく、沖田さんのペースで大丈夫です。これからよろしくお願いします。
(生活支援員 冠 茜)

りょういくはん 療育班

ホールでは、ゴム入れ作業をはじめ、カード制作や竹踏み運動、塗り絵など、さまざまな活動に取り組んでいます。作業室1では、引き続き一人ひとりの特性に応じた自立課題に励まれています。まだまだ暑さの厳しい日が続きますが、皆さんそれぞれに楽しみながら活動を進めておられます。

(生活支援員 濱田吉弘)

あたらしい利用者さん (通所部)

おきたのぶゆき 沖田信之さん

カープ、ビール、ドリフターズなど好きなものが沢山ある沖田さん。得意料理は『すき焼き』だそうです。毎週金曜日にビールは飲むそうです。



なかそあいり 中曽愛梨さん

月1回、通所部の土曜開所日に来られる中曽さん。話しかけると初対面でも顔を見て応えてくれます。いろんな歌を知っている中曽さん、にぎやかな開所日を楽しみに来られています。



広原山たより その14



朝夕の風に秋の気配を感じる季節となりました。空が高くなり、虫の声に移ろいに心も少しずつ冬への準備を始めているように思います。皆さまいかがお過ごしでしょうか。9月、敬老の日を含む連休で鹿児島県にある「知覧特攻平和会館」を訪れてきました。展示には、10代から20代で沖縄の海へと飛び立った方々の遺影や遺書が数多く並んでいます。読み進めるうちに、私自身の人生や家族との関わり、仕事や社会に向き合う姿勢を考えさせられました。命をかけて国を思い、未来を託そうとした若者たちの記録に触れることは、私自身にとって深い意味がありました。

平和会館で流されている動画で「遺書には母親に宛てた言葉がとても多いことが特徴です」と説明がありました。若くして旅立たれた方々の多くが最期の時、母親に想いを寄せ、その存在に支えられていたことが伝わってきます。その姿は、障がいのある子どもを想い続ける母の姿とも重なり、母子の絆を思わずにはいられませんでした。

そこで小学生の時の一つの出来事を思い出しました。宿泊合宿の課題として家族に手紙を書いたのですが、そこには「お母さん」への言葉ばかりで「お父さん」という言葉は一度も出てきませんでした。後になって母から「お父さんが少し寂しそうにしていたよ」と聞かされました。父親となった今思うと、少し複雑な気持ちになります。話しは戻りますが、知覧特攻平和会館への訪問を通して、今こうして私たちが福祉の仕事に携われるのは、平和の上に社会が成り立っているからこそであること。そして、人の権利が守られ、安心して暮らすことのできる社会にあって初めて、私たちは「支え合う」営みを続けられることに感謝の気持ちを新たにしています。

さて、11月9日には「友和の里祭り」を開催いたします。模擬店や展示など、利用者さん、職員、地域の皆さまと一緒に楽しくする場を準備しています。平和に支えられる今の幸せを、皆様と分かち合えればと思っております。是非、気軽にお立ち寄りください。

(常務理事 中村 真和)



廿日市市社会福祉協議会主催 令和7年度福祉施設相互研修

研修先：広島ひかり園
研修者：荒川渡（入所部 生活支援員）

利用者さん皆さんが話しかけてくださり、楽しく一日があつという間でした。職員の皆さんの利用者さんへの気遣いと利用者さんに寄り添った支援をされていることが印象に残りました。作業でも利用者さんひとりひとりに合った作業が行えるようにと考えられていて工夫がありました。浴室では色々な機械があり、使用している所は見れませんが初めて見るものばかりで参考になりました。

友和の里からも複数の職員が他施設へ研修へいき、学んでいます。今回はその研修報告をご紹介します。

研修先：ピクトハウス
研修者：山田憲志（通所部 主任生活支援員）

数ある作業を特定の利用者で固定するのではなく、毎回違う作業をしてもらおう工夫され、利用者さんの経験値を向上させる努力をされていました。また、家庭の延長のような雰囲気では利用者さんがのびのびと過ごしているように感じました。固定観念で物事を決めつけず、できる能力をより伸ばしていきたいと思っています。

トピックス

みんなの健康維持のための

【体重測定】

G H F Hでは毎週土曜日の朝に体重測定を行っています。みなさんの健康維持のために役立っています。立位が難しい方は通所部にある車椅子ごと測れる体重計を利用させて頂いています。食欲の秋がやってきますが、皆さんの健康に気を付けて行ききたいと思います。（主任生活支援員 吉村 愛）

有事へのとりくみ

【避難と消火の訓練】

9/16(火)にグループホームゆうわ・フレンドホームゆうわ合同で避難・消火訓練（消防訓練）を行いました。今回は夜間を想定し21時頃にグループホームゆうわの建物の外にあるガス機器から出火したとする避難訓練の後、ホースの先から水が出る水消火器を使った消火訓練を行いました。

入居者の皆さんには自室で待機していただいた状態から避難訓練を開始しました。中にはテレビの音量を大きくし過ぎて避難誘導の声掛けに気づかず避難するのが最後になる方もいらっしゃいました。実際の火災でも想定外の事が起こる可能性があります。想定外の事が起こっても出来る限り冷静に対処できるよう、考えうる様々な想定をした上でこれからも訓練に臨みたいと思います。（生活支援員 堂面 大地）



見学にこられました

【あじさいの会】

9/12(金)に地域の人権問題啓発活動推進者の会「あじさいの会」の皆さまが施設見学に来られました。当日は、法人の理念や施設の概要についての説明をするとともに、組織と人員体制、提供している障害福祉サービスの内容についても紹介させていただきました。その後は、通所部・入所部の施設内をご案内し、利用者の皆さんが取り組まれている活動や過ごし方をご覧いただきました。見学の後には、敷地内にある遊歩道の散策をし、自然に触れ合いながら心地よい時間を過ごしました。今回の施設見学を通して、友和の里をより

深く知っていただく貴重な機会となりました。今後も地域の皆さまとともにしあわせになることを目指して取り組んでいきます。（部長 乙原 亮）



通所部 土曜開所日

【うんどうかい】

9月の開所日は通所ホールで運動会をしました。「玉入れ」「ボードボールゲーム」「輪投げ」「スプーンリレー」の4競技を楽しみました。競技に取り組む皆さんの表情はとても生き生きとしておられ、時間いっぱいまで競技を楽しまれていました。応援の声や笑顔いっぱいの皆さんの表情で、通所ホール全体が一体となって楽しい開所日となりました。（生活支援員 井場 孝行）



自然災害想定訓練

【もしもの時に備えて】

友和の里では9/2（火）に自然災害を想定したBCP（事業継続計画）訓練を行いました。通所部・入所部・職員、約110名が土砂災害発生を知らせる放送後に避難を開始。入所部では約50名が入所棟の2階と3階に避難しました。職員の指示により安全に誘導後、点呼で安否を確認。避難開始から完了までおよそ10分でした。エレベーターが使えない想定で、階段を上り各自室へ入ってもらうのに、



思ったより時間がかかりました。今後も定期的に訓練を実施し、災害時に適切な対応がとれるようにしていきたいと思えます。（生活支援員 乙原 潤）

リフレッシュカフェ

【参加してみて】

友和の里コミュニティハウスでは毎月リフレッシュカフェ（認知症カフェ）がオープンしています。8月のカフェに小関さんと参加してみました。健康維持で心がけていることをテーマに話をする活動があつて、小関さんは



大好きな歌の名前を書いて参加者に紹介していました。そのあと、お楽しみの合唱です。小関さんがリクエストした「365日のマーチ」を伴奏付きでみんなで歌いました。私は小関さんがカフェの参加者の方と一緒に過ごし、そして歌うことで参加者の方が和まれている雰囲気がいいなあと感じることができました。スタッフの方からは「また来てね」と声をかけられた小関さんでした。（ヒューガノリコ）

しよくいんインタビュー

とみながみどり
今月は通所部の富永緑さんにお話を聞きました。いつも平常心の富永さん、淡々と業務をこなしながら、笑顔も忘れない職員のおひとりです。その秘訣を探ってみました。

入職6年目、どうですか？

あつという間の5年間でした。最初の1年はやっていけるのかなあと不安にもなりました。もともと、人とかかわる仕事が好きで、人からエネルギーをもらっていると感じることはありません。働いてみて思うのが、一方通行じゃないということ。かわり合いの中でいろんな思いをもっている。たまに思いつめることもあります。でも「ま、いっか」ときりかえる。あきらめは早い方なので。

たまらなくうれしい

業務中たまに、たまらなくうれしい事があります。利用者さんとの会話の最中にもあつて、最近だと「稲刈りがすつごく暑かったよ」と話したら「大変だったね」と返ってきた。嬉しかったです。たまらなくうれしいを求めて、共感力はこの仕事についてからさらに育ってきたように思えます。

連絡帳

生活支援員になってから連絡帳を書かせもらっていて、ご家族とのやりとりが楽しいです。できるだけあつたことをそのまま伝えるようにしていて、やり取りした会話の内容も記入しています。子供の入学・卒業式で個人的なお休みのことを記入してお伝えしたことがあり、すると「おめでとうございます！」とご家族から記入があつたりしてとても心が温かくなります。



創作班に所属している富永さん、ウエス作業では山根さんとペアを組んで和気あいあいと…

10 友和の里行事予定

- 10/3金 アート活動（入所）
 10/8水 体重測定（入所）
 10/10金 夕食会（GHFH）
 10/10金 工賃支払日（通所 / 入所）
 10/12日 懇親会（GH）
 10/14火 お楽しみ会（入所）
 10/17金 アート活動（入所）
 10/17金 衛生の日（通所）
 10/18土 土曜日開所日（通所・入所）
 ハーモニーフェスタ
 10/20月 監事監査
 10/26日 訪問美容（GHFH）
 10/28火 夕食会（入所）



寄付のご紹介

あじさいの会さま

専念寺仏教婦人会さま たくさんのご寄付ありがとうございます

今年のポスターは沖貴代美さんと和泉広司さんのイラストを使用して作成しました。



イラスト原画：沖貴代美さん

イラスト原画：和泉広司さん

令和7年度友和の里まつり テーマについて

今年の「友和の里まつり」は、令和8年度に開所予定のグループホーム『ハピネスゆうわ』をご紹介します特別な機会でもあります。テーマは「ハピネス全開！友和の里まつり」（しあわせ）です。

地域の皆さまに『ハピネスゆうわ』を知っていただき、たくさん笑顔としあわせが広がるよう、職員一同心を込めて準備を進めています。ぜひご家族・ご友人と一緒に、友和の里まつりへお越しください。皆さまのご来場を心よりお待ちしております！